

平成29年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報総合 研究事業）  
（分担）研究報告書

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発

研究分担者 横田 順一郎 独立行政法人 堺市立病院機構 副理事長

研究要旨

本研究では、原死因を適切に記載するために死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例集を中心とした教育コンテンツの開発と普及・啓発を目的とする。

本年度は、事例集と模範記載例（標準的記載例）の内容の充実を図った。救急医学領域では外傷や中毒、急性疾患のみならず、やや経過の長い例など、複数の病態が関与する事例もあり、実際の記載に際しては、医学的因果関係のとらえ方が問題になる場合も少なくない。コンテンツの活用により、記載のしかたに悩む例での一助となることが期待される。

A．研究目的

死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例を収載した教育コンテンツを開発し、原死因の適切な記載についての認識の普及を目的とする。

B．研究方法

研究開発としては、事例と標準的記載例を中心とするコンテンツを作成する。特に、原死因を適切に記載・選択する事を主要な目的としており、医学的因果関係のとらえ方を重点にした記載例を作成する。

様々な領域の専門家から構成される各分担研究者、研究協力者の協力により、死亡診断書・死体検案書等を作成する上で記載に悩むような事例を収集する。問題となる点や課題を抽出し、ICD-10の原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）を作成し、eラーニングのシステムとした。記載例については、研究班員全員でのブラッシュアップを行い、幅広い想定事例を作成する。

（倫理面への配慮）

例示の作成に際しては、内容を編集し、個人情報や個人が特定できるような内容は含まないようにした。

C．研究結果

死亡診断書・死体検案書作成の際に、記載の

しかたに悩む場合として、急性疾患後の経過の長い事例などを中心に事例を設定し、それぞれについて模範記載例（標準的記載例）を作成した。さらに、収載した全事例についてブラッシュアップを行った。

D．考察

死亡診断書、死体検案書は人間の死亡の医学的・法律的な証明であり、死亡に立ち会った、または死体を検案した医師が作成する。その作成にあたっては、医学的診断のみならず、外因の場合では状況、経過の長い場合や複数の病態が関与する場合にはそれぞれについての医学的因果関係も考慮するため、時に記載の際に悩む例も少なくない。

死亡診断書、死体検案書は、わが国の死因統計を作成する際の資料となる。死因統計は、わが国の保健衛生行政や社会的にも広く活用されており、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつである。一人一人の死亡診断書、死体検案書の記載内容（死因欄に記載された傷病から選択された原死因）が死因統計の分類を行う上での基礎となっており、記載に苦慮する事例での適切な記載例（標準的記載例）を求める声もある。

本研究では実際の事例に即した形での教育コンテンツを作成した。このコンテンツについては、クイズ形式の自習のコンテンツのみならず、困ったときに参照できる形で、収載

事例を充実させた。

死亡診断書・死体検案書の適切な記載は、直接的・間接的に死因統計の精度向上を介して、国民の健康増進や福祉の向上に大きく寄与することが期待される。死亡診断書・死体検案書の作成については、どのような形で記載内容が統計作成に利用されているかを熟知しておく必要があるが、医学部の学部教育だけでなく、現場で診療や死体検案に従事する医師を対象とした研修会での普及・啓発も不可欠である。作成した教育コンテンツは、標準記載例についての事例を充実させ、講義や研修会等でも活用できるよう配慮した。

#### E．結論

死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例を収載した教育コンテンツを作成し、適切な記載についての内容例示を充実させた。死亡診断書・死体検案書の記載に苦慮する例における作成の一助となるとともに、死因統計の精度向上、ひいては国民の健康増進・福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

#### F．健康危険情報

該当なし。

#### G．研究発表

##### 1. 論文発表

横田順一郎：救急医療におけるメディカルコントロール、救急医療体制の歴史 .日本救急医学会メディカルコントロール体制検討委員会・日本臨床救急医学会メディカルコントロール検討委員会監修．救急医療におけるメディカルコントロール．へるす出版．東京； pp3-18 , 2017.

##### 2. 学会発表

なし

##### 3. 関連した実務活動

なし

#### H .知的財産権の出願・登録状況( 予定を含む )

該当なし。

